



立谷氏6選

相馬市長選、一転無投票



6選を祝い、ガッツポーズする立谷氏(中央)と妻礼子さん(左)
12日午後5時30分ごろ、相馬市

接種「モデル」全国注目

任期満了に伴う相馬市長選は12日告示され、無所属で現職の立谷秀清氏(70)の5期へのほかに立候補の届け出がなく、立谷氏の無投票での6選が決まった。

告示直前に出馬の意思を示していた新人で郡山市の会社経営、高橋翔氏(33)は12日午後、動画投稿サイトで一転して立候補取りやめを表明。福島民友新聞社の取材に対して「出馬意思を示した後に、市民から寄せられた意見を踏まえ、総合的に判断した」と理由を語った。

同市長選の無投票当選は立谷氏が再選を果たした2005(平成17)年以来で、1954(昭和29)年の市制施行後では3度目。6選は県内59市町村の現職首長で最多。

立谷氏は迅速な新型コロナウイルススワクチン接種体制を実現し「相馬モデル」として全国的に注目を集めた。3回目接種に向けた準備にもいち早く着手した。一方、地域経済への感染症の影響は長期化しており、感染防止対策と経済の再生をどう両立させるか、手腕が問われる。

当選証書は20日に付与される。任期は来年1月19日から4年。